

竹原市子育て支援ニーズ調査(アンケート調査)

平成30年度との比較

令和6年7月

1.竹原市子育て支援ニーズ調査(アンケート調査)の概要

- 1) 就学前児童
- 2) 小学校児童

2.竹原市子育て支援ニーズ調査(アンケート調査)結果の比較

- 1) 就労状況について
- 2) 子どもを預かってもらえる人について
- 3) 平日の定期的な教育・保育事業について
- 4) 病気の際の対応について
- 5) 子育てに対する悩み、相談等について (1)
- 6) 子育てに対する悩み、相談等について (2)
- 7) 地域とのかかわりについて
- 8) 本市の子育て環境について

1.竹原市子育て支援ニーズ調査(アンケート調査)の概要

1)就学前児童

	2018(平成30)年度	2023(令和5)年度
調査対象者	市内の 未就学児 が属する全世帯①	同 左
調査期間	平成31年2月	令和6年2月
調査数(配布数)	643件	506件
調査方法	郵送による配布、郵送による回収	郵送による配布、郵送による回収
調査票回収数	262件	183件
回収率	40.7%	36.2%

2)小学校児童

	2018(平成30)年度	2023(令和5)年度
調査対象者	市内の 小学生 が属する世帯	同 左
調査期間	平成31年2月	令和6年2月
調査数(配布数)	770件	603件
調査方法	郵送による配布、郵送による回収	郵送による配布、郵送による回収
調査票回収数	342件	258件
回収率	44.4%	43.0%

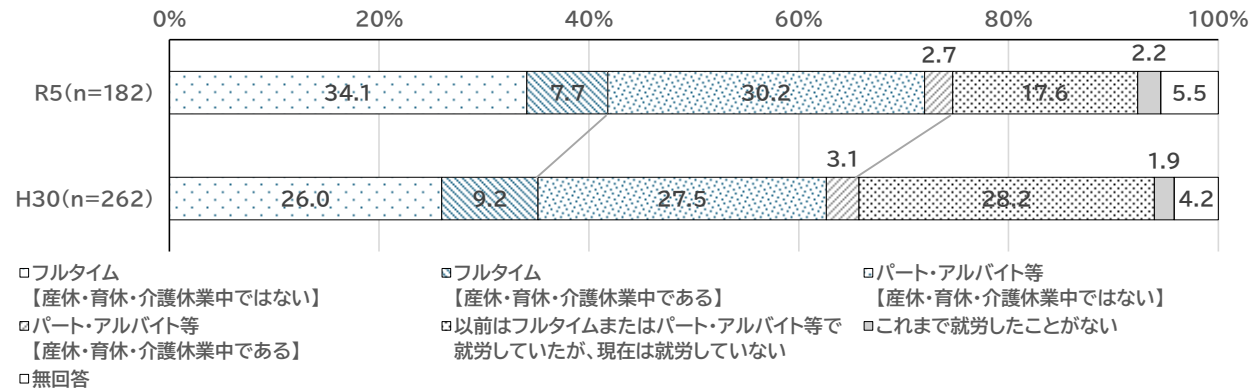
2.竹原市子育て支援ニーズ調査(アンケート調査)結果の概要

※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

1)-1 就労状況について(母親)

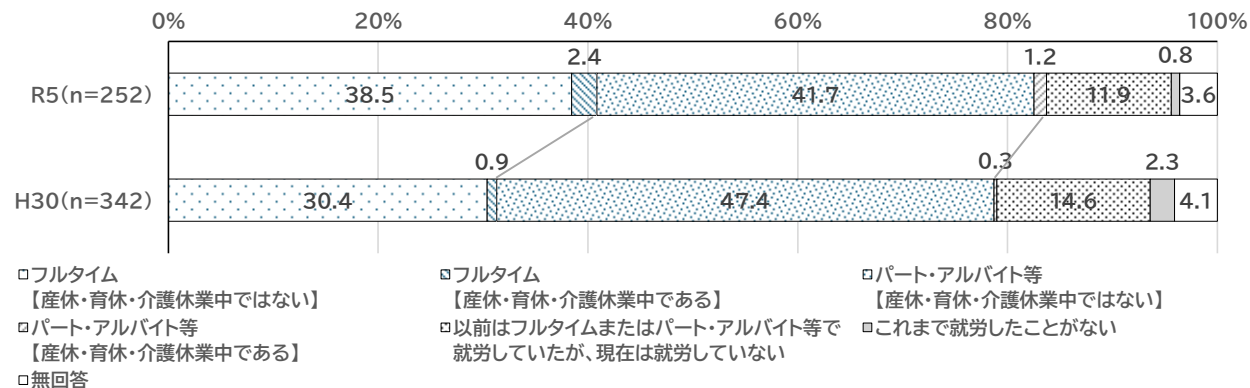
○就学前児童(問11①/問11①)

H30年度に比べ、R5年度は、フルタイム、パート・アルバイト等の割合はともに増加しており、パート・アルバイト等を含めた就労者は7割強となっています。



○小学校児童(問9①/問9①)

H30年度に比べ、R5年度は、パート・アルバイト等の割合は減少していますが、フルタイムの割合は9.6ポイント増加しており、パート・アルバイト等を含めた就労者は8割強となっています。

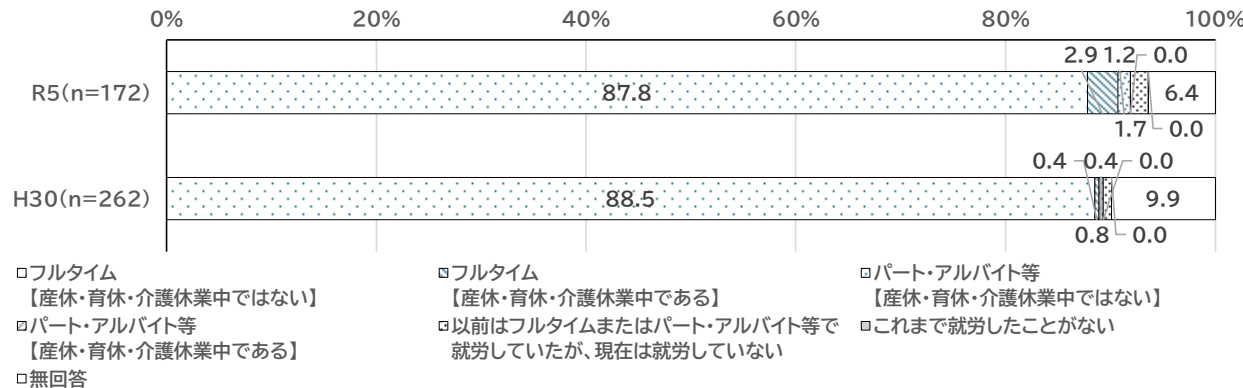


1)-2 就労状況について(父親)

※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○就学前児童(問11②/問11②)

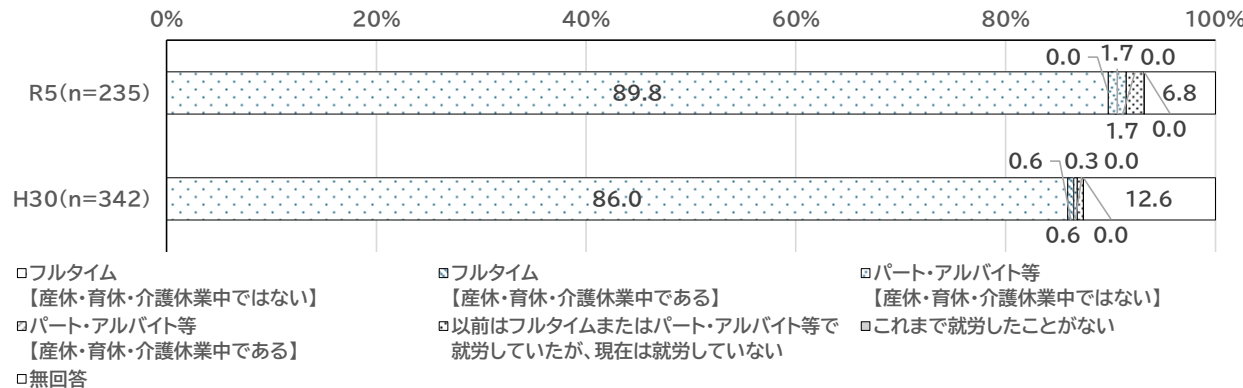
H30年度、R5年度ともにフルタイム就労の割合は9割弱となっています。そのうち産休、育休等による休業は2.5ポイントと微増しています。



カテゴリ	R5	H30
フルタイム【産休・育休・介護休業中ではない】	87.8	88.5
フルタイム【産休・育休・介護休業中である】	2.9	0.4
パート・アルバイト等【産休・育休・介護休業中ではない】	1.2	0.4
パート・アルバイト等【産休・育休・介護休業中である】	0.0	0.0
以前はフルタイムまたはパート・アルバイト等で就労していたが、現在は就労していない	1.7	0.8
これまで就労したことがない	0.0	0.0
無回答	6.4	9.9
合計	100	100

○小学校児童(問9②/問9②)

H30年度に比べ、R5年度は、パート、アルバイト等を含めた就労の割合は増加していますが、そのうち産休、育休等による休業は0ポイントとなっています。

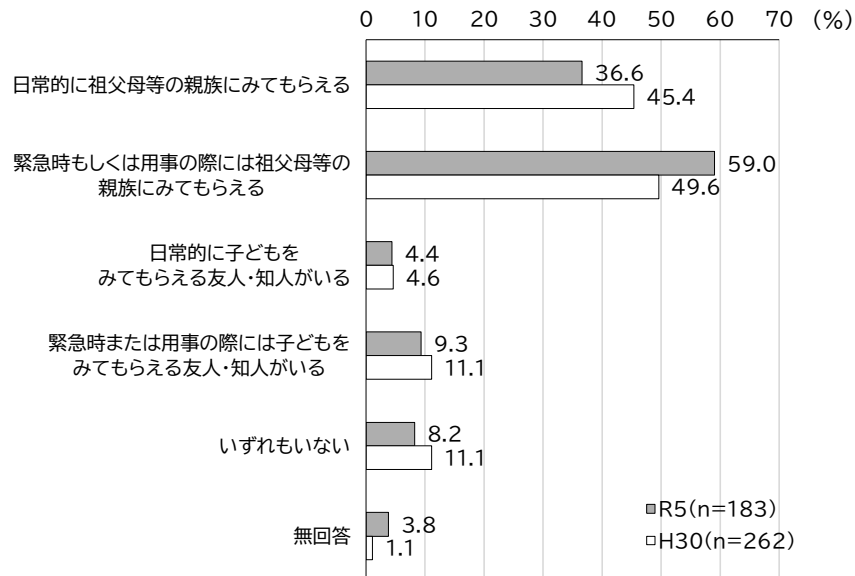


カテゴリ	R5	H30
フルタイム【産休・育休・介護休業中ではない】	89.8	86.0
フルタイム【産休・育休・介護休業中である】	0.0	0.6
パート・アルバイト等【産休・育休・介護休業中ではない】	1.7	0.3
パート・アルバイト等【産休・育休・介護休業中である】	0.0	0.0
以前はフルタイムまたはパート・アルバイト等で就労していたが、現在は就労していない	1.7	0.6
これまで就労したことがない	0.0	0.0
無回答	6.8	12.6
合計	100	100

2) 子供を預かってもらえる人について

○就学前児童(問10/問10)

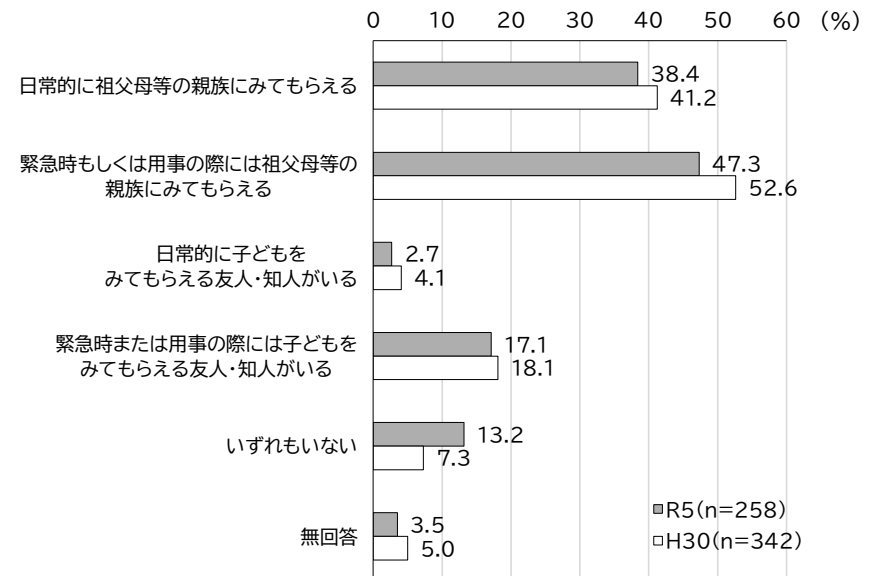
H30年度に比べ、R5年度は、緊急時に預かってもらえる親族がいる世帯は、9.4ポイント増加しています。一方で、日常的に預かってもらえる親族がいる世帯は8.8ポイント減少しています。



※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○小学校児童(問8/問8)

H30年度に比べ、R5年度は、預かってもらえる世帯の割合は減少しています。特に、緊急時に預かってもらえる親族がいる世帯は、5.3ポイント減少しています。一方で、いずれもない世帯は5.9ポイント増加しています。

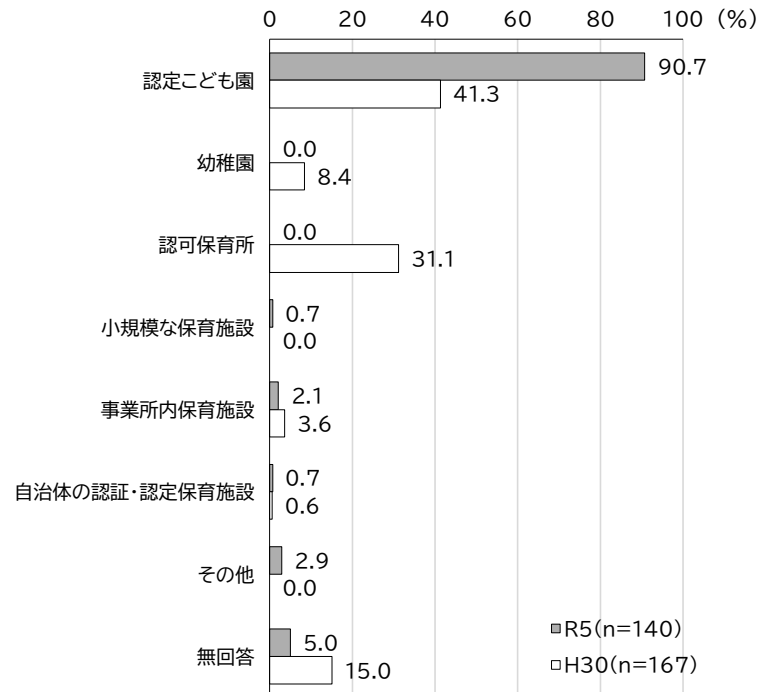


3) 平日の定期的な教育・保育事業について

○就学前児童(問14-1/問14-1)

H30年度に比べ、R5年度は、幼稚園や保育所が認定こども園へ移行したため、「認定こども園」が49.4ポイント増加し、9割強の世帯が利用しています。

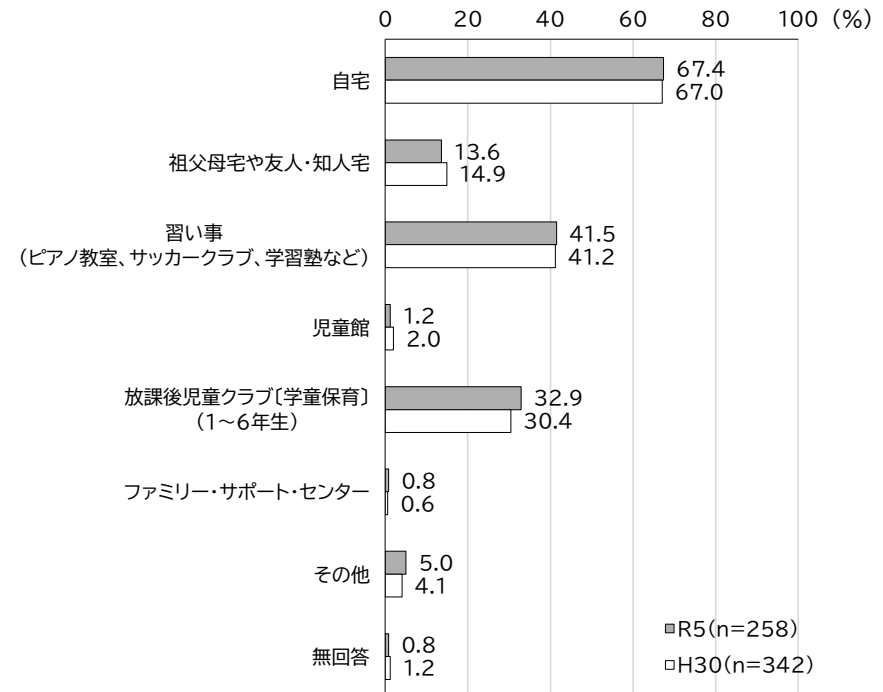
※「預かり保育」、「家庭的保育室」、「その他の認可外の保育施設」、「居宅訪問型保育」、「ファミリー・サポート・センター」はR5、H30ともに回答者がいなかったため除外。



※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○小学校児童(問12/問12)

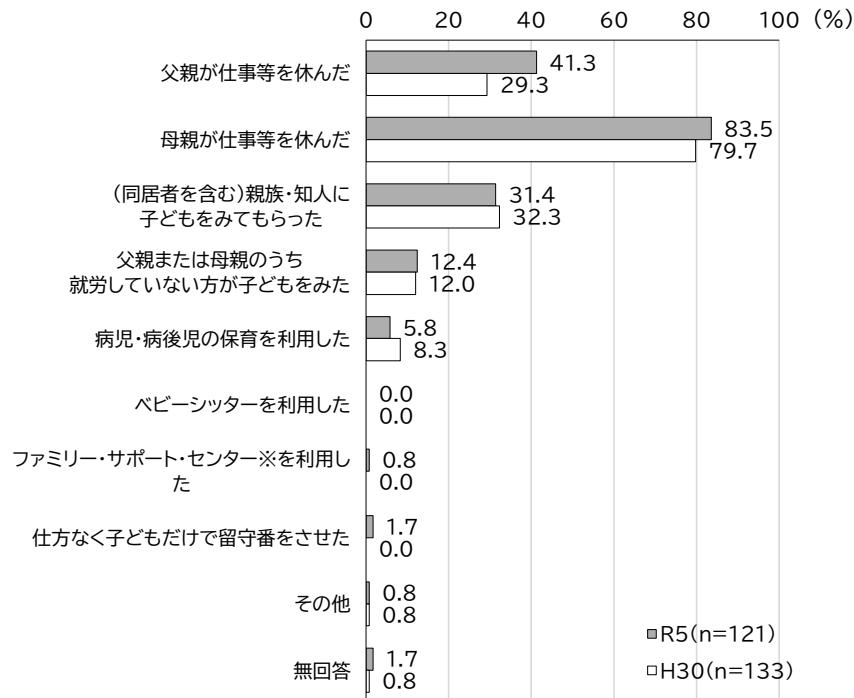
H30年度、R5年度ともに「自宅」が最も多く、「習い事」、「放課後児童クラブ」が続いています。



4) 病気の際の対応について

○就学前児童(問22/問22)

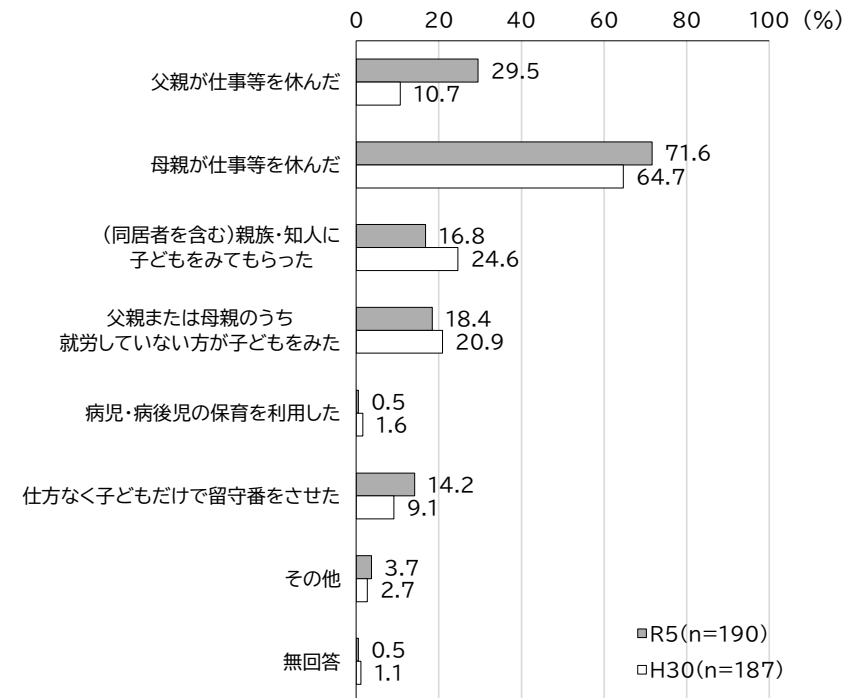
H30年度、R5年度ともに「母親が仕事等を休んだ」が最も多く、続いて、H30年度では「親族・知人に子どもをみてもらった」、R5年度では「父親が仕事等を休んだ」が多くなっています。また、「父親が仕事等を休んだ」が12ポイント増加しており、他の項目に比べ増加割合が大きくなっています。



※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○小学校児童(問17-1/問17)

H30年度、R5年度ともに「母親が仕事等を休んだ」が最も多く、続いて、H30年度では「親族・知人に子どもをみてもらった」、R5年度では「父親が仕事等を休んだ」が多くなっています。また、「父親が仕事等を休んだ」が18.8ポイント、「母親が仕事等を休んだ」が6.9ポイント、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が5.1ポイントとそれぞれ増加し、「親族・知人に子どもをみてもらった」が7.8ポイント減少しており、他の項目に比べ増減割合が大きくなっています。



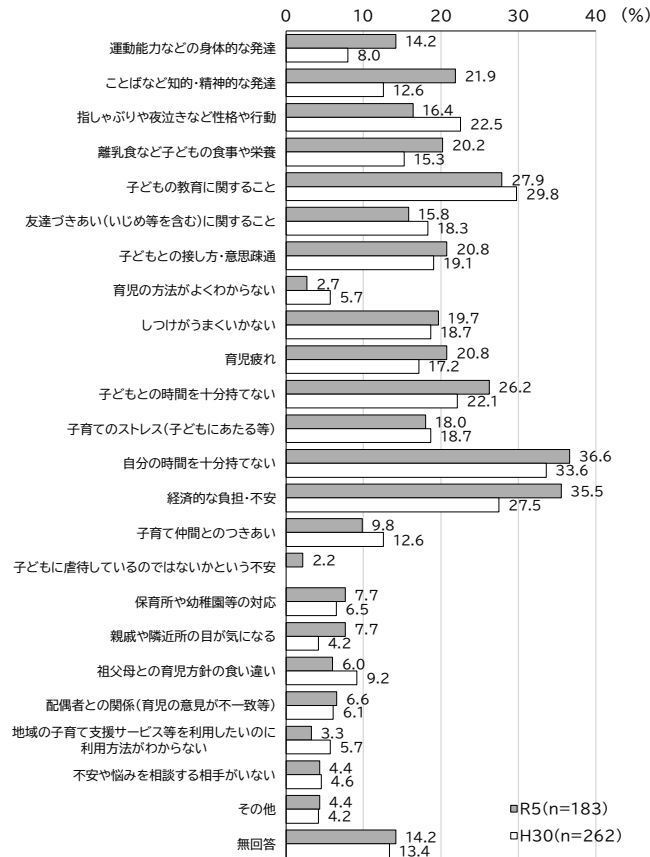
5) 子育てに対する悩み・相談等について (1)

※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○就学前児童(問31/問31)

H30年度、R5年度ともに「自分の時間を十分持てない」が最も多く、続いて、H30年度では「子どもの教育に関すること」、R5年度では「経済的な負担・不安」が多くなっています。

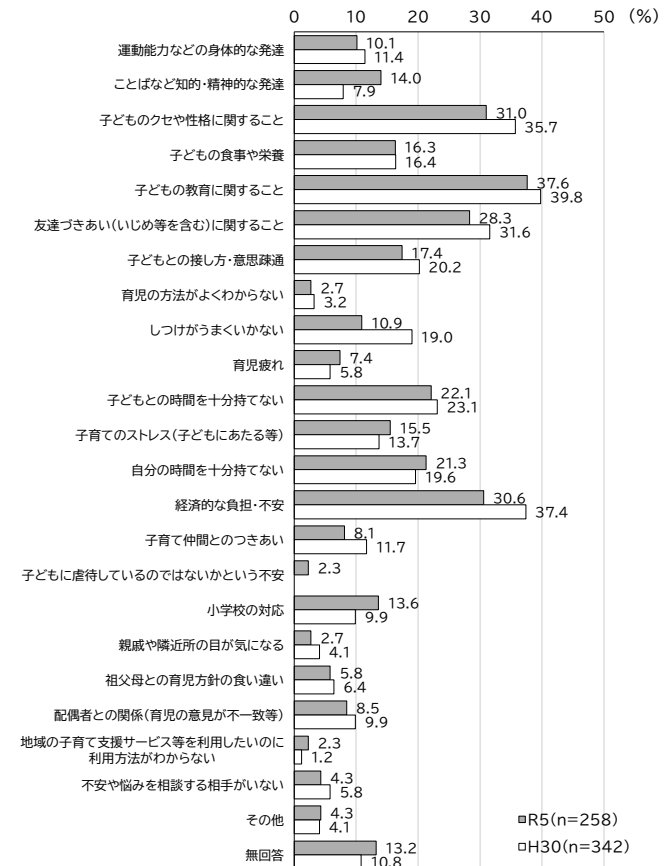
また、「ことばなど知的・精神的な発達」が9.3ポイント、「経済的な負担・不安」が8.0ポイント、「運動能力などの身体的な発達」が6.2ポイントとそれぞれ増加し、「指しゃぶりや夜泣きなど性格や行動」が6.1ポイント減少しており、他の項目に比べ増減割合が大きくなっています。



○小学校児童(問29/問29)

H30年度、R5年度ともに「子どもの教育に関すること」が最も多く、続いて、H30年度では「経済的な負担・不安」、R5年度では「子どものクセや性格に関すること」が多くなっています。

また、「しつけがうまくいかない」が8.1ポイント、「経済的な負担・不安」が6.8ポイントとそれぞれ減少し、「ことばなど知的・精神的な発達」が6.1ポイント増加しており、他の項目に比べ増減割合が大きくなっています。



6)子育てに関する悩み・相談等について (2)

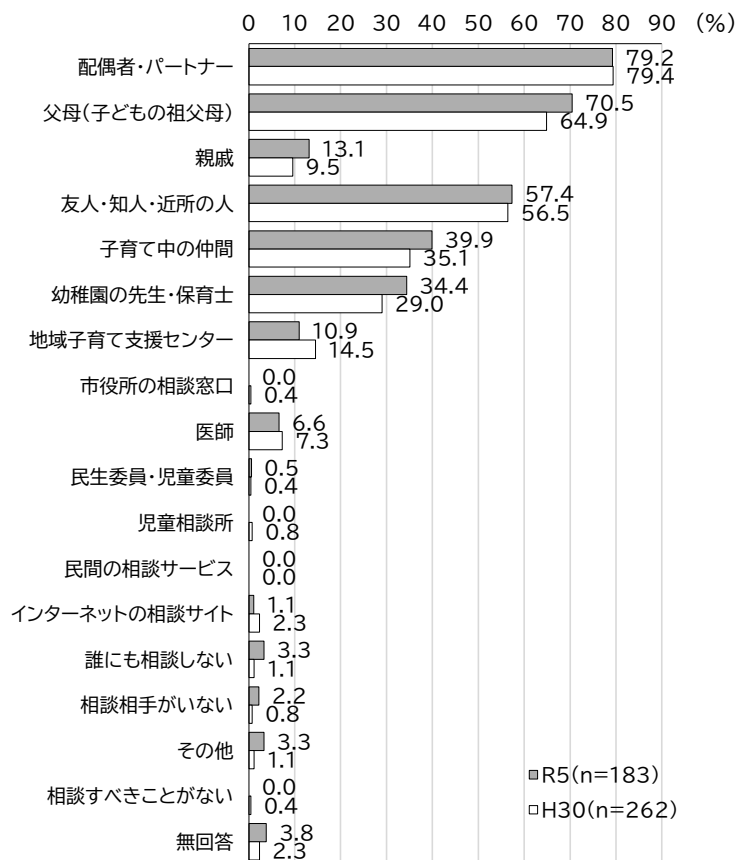
※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○就学前児童(問32/問32)

H30年度、R5年度ともに「配偶者・パートナー」が最も多く、続いて「父母(子どもの祖父母)」、「友人・知人・近所の人」の順となっています。

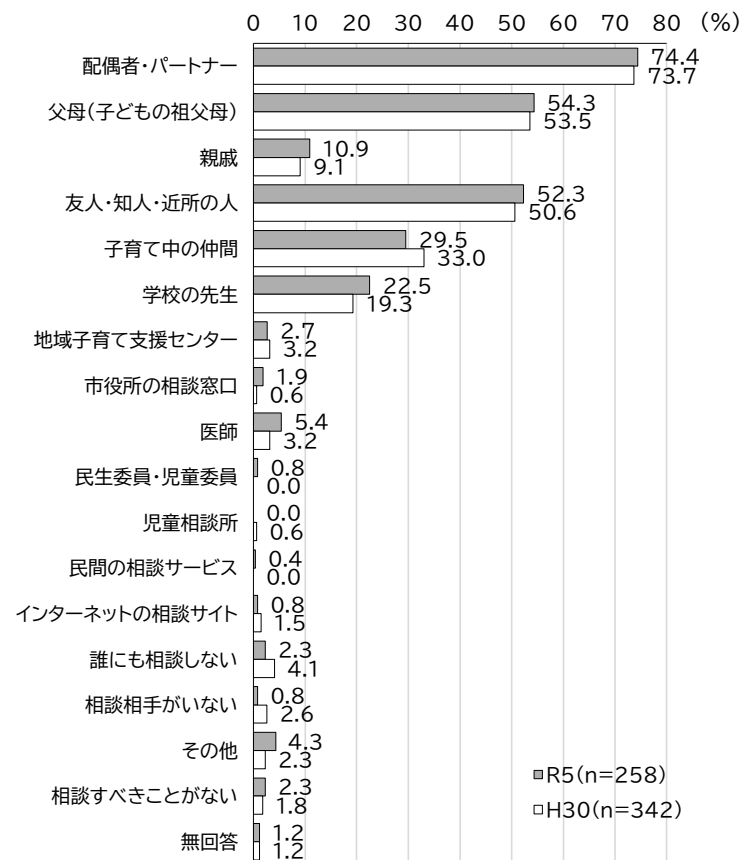
また、「父母(子どもの祖父母)」が5.6ポイント、「幼稚園の先生・保育士」が5.4ポイントとそれぞれ増加しており、他の項目に比べ増加割合が大きくなっています。

※H30選択肢「子どもセンター」はR5ではなし。



○小学校児童(問30/問30)

H30年度、R5年度ともに「配偶者・パートナー」が最も多く、続いて「父母(子どもの祖父母)」、「友人・知人・近所の人」の順となっており、就学前児童を持つ世帯と同じ傾向となっています。

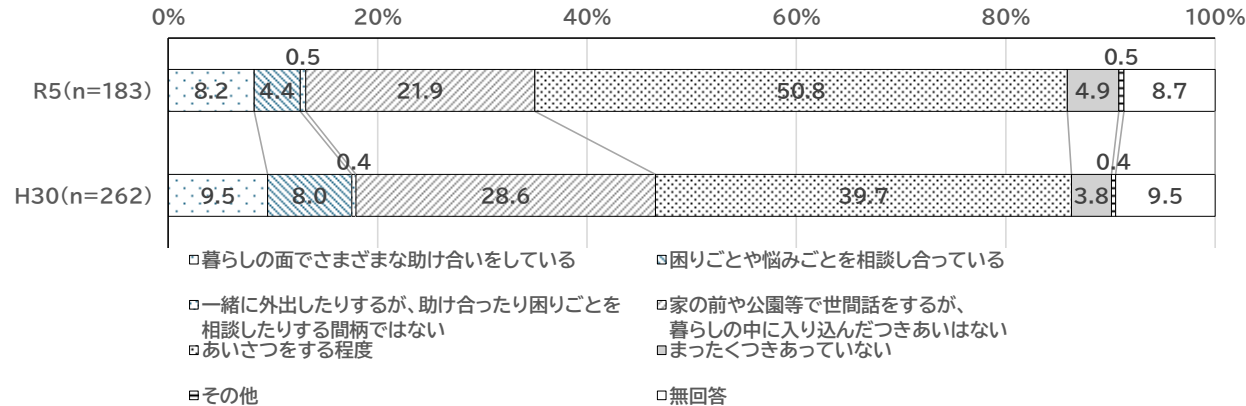


7) 地域との関わりについて

※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

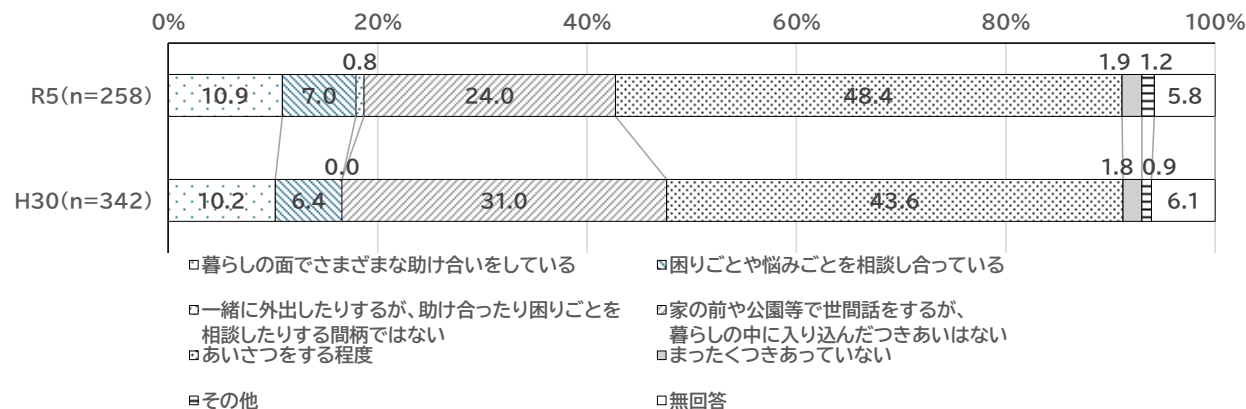
○就学前児童(問34/問37)

H30年度に比べ、R5年度は、「あいさつをする程度」の割合は11.1ポイント増加しています。一方で、「家の前や公園等で世間話をするが、暮らしの中に入り込んだつきあいはない」の割合は6.7ポイント、「困りごとや悩みごとを相談し合っている」の割合は3.6ポイントとそれぞれ減少しています。



○小学校児童(問32/問34)

H30年度に比べ、R5年度は、「家の前や公園等で世間話をするが、暮らしの中に入り込んだつきあいはない」の割合は7.0ポイント減少しています。一方で、「あいさつをする程度」の割合は4.8ポイント増加しています。

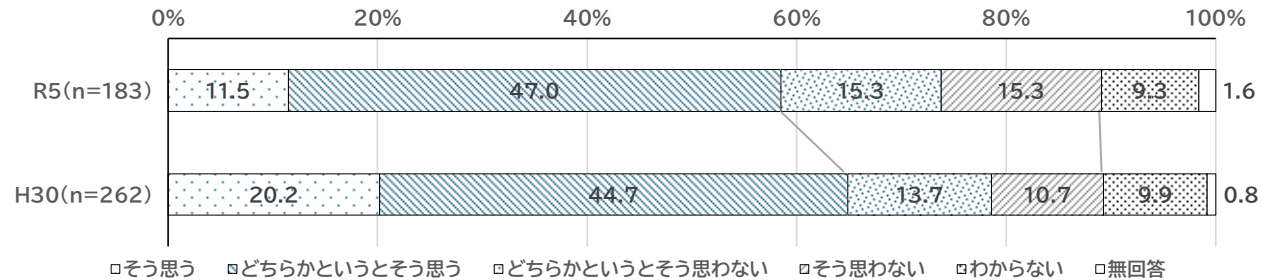


8) 本市の子育て環境について

※(R5年度設問No/ H30年度設問No)

○就学前児童(問38/問41)

竹原市は子育てしやすいまちだと思うかという問いに対して、H30年度に比べ、R5年度は、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）の割合は6.4ポイント減少しています。一方で、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）の割合は6.2ポイント増加しています。



○小学校児童(問36/問38)

竹原市は子育てしやすいまちだと思うかという問いに対して、H30年度に比べ、R5年度は、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」の合計）の割合は3.8ポイント増加しています。

